



左義長 今年も各地で

毎年恒例の小正月に行われる火祭り行事「左義長」が1月15日平岡北小学校でも行われました。



子ども代表が点火すると強い風にあおられ炎は瞬く間に広がり、竹が大きな音ではじけると子ども達が歓声を上げていました。伝統行事大切にしたいですね。

日本共産党

あなたの疑問にお答えします

自衛隊派兵は必要か？



安倍内閣は、米国とイランとの緊張状態が続く中東地域での情報収集態勢を強化するとして、自衛隊の派兵を閣議決定しました。中東の平和と安定、日本関係船舶の安全確保のためというのが口実です。この地域への派兵は、自衛隊が紛争に巻き込まれ、憲法9条が禁止する武力行使の危険を生み出します。

閣議決定も「不測の事態の発生」を想定しており、その場合には「自衛隊法82条の規定に基づき、海上警備行動を発令して対応する」としています。海上警備行動は武器の使用が認められており、武力行使する危険はさらに大きくなります。

自衛隊の派兵が防衛省設置法4条の「調査・研究」を根拠に決定されたことも重大です。国会承認を必要とせず、活動の内容や地理的範囲、装備などの詳細は防衛相の判断に委ねられ、海外派兵のなし崩し的な拡大につながります。

イランをめぐる今日の問題は、トランプ米政権が核合意から一方的に離脱して作り出したことに始まります。日本がなすべきはトランプ政権に核合意への復帰を求めるとともに、イランに自制を促し、対話による外交的解決に力を尽くすことです。

喜瀬川本格復旧工事



台風による擁壁の崩れを仮復旧していた喜瀬川で本格的な復旧工事が進められています。

工事区間は加古川バイパスとJR神戸線の間で、約半年かかる予定です。

ゴミ袋指定 町内会も困るのでは

先日、「ゴミ袋の指定」について校区毎の説明会があり、参加しました。1年半の猶予期間を経て、21年6

月以降は指定ゴミ袋以外は回収しないとのこと。問題は取り残されたゴミの処理です。

投棄者不明の場合町内会が処理せざるを得ません。指定袋に詰め替えるでしょう。町内会の負担がいつそう増えます。他校区の説明会で会長さんたちから不安の声が多数でたのは当然です。

「ゴミ集積場の清掃や片付けは善意でなされています。会員の善意負担を増やす政策は本当に困ります。」(木戸久裕。中野町内会長)

神鋼でまた労務災害

高砂に続いてまた労務災害です。神戸新聞によると、1月18日の深夜、神鋼加古川工場で、クレーンでつり上げた百数十キロの鉄板が落ち、山之上在住の下請け作業員(58歳)が死亡しました。亡くなられたのは福岡県の建設会社社員です。遠く離れた地で亡くなられたのは残念で心からお悔やみ申し上げ、安全な職場を願わずにはいられません。

半月早い梅の開花



大中遺跡公園の梅の花

例年より10日ほど早く、梅が咲いています。春のような気候に梅もびっくりしているのでは？異常気象が心配です。

平岡町内街道散策

17

ため池ハザードマップ

1月15日山之上公会堂で漬目池ハザードマップのワークショップ(意見交換会)がありました。満水の堤防が地震で決壊した場合の、浸水区域や避難経路を検討する会合でした。洪水はいつきに川崎車両工場の方に下ります。

街道散策⑮で取り上げた元の喜瀬川です。水は明姫幹線でせき止められ中野地区に滞留します。昔はそのまま海へと注いでいました。

水田の地下にはかつての河原が何本も埋まっています。明姫幹線の南の水田川改良工事現場では河原の砂利



が掘りだされています。幾度かの洪水の土砂で埋まってしまった河原跡の砂利です(写真)。

新しく掘られた川に地下の河原跡の水が流れ湧き出しています。なぜか透き通った青色の水です。どうしてこんな色なのかまだわかりません。不思議な色です。一見の価値あります。なぜでしょう？

(山の上の小さな地域博物館 館長 木戸久裕)

古い国保証を 探しています

共産党市議団の毎月「無料法律相談会」に、「平成17年と20年に保険を勝手に解約された」、との相談がありました。

本人確認に使用された国民健康保険証が偽造されたものではないかの疑いがあります。

問題は、国保証の住居表示の仕方。で解約時に提示された国保証の住居表示が現在のものと異なるのです。

弁護士の照会に、加古川市は「国保証の住居表示は住民票と一致している」「平成17年、平成20年当時は別のシステムだったが当時の資料は廃棄済みなので不明」というもので

差し上げます

どなたか当時の国保証をお持ちでしたらお見せいただけませんか。真相解明にご協力をお願いします。



エプソン純正
プリンターインク
ワンセット新品
型番 50

お問い合わせは
中村425-3911



消費税の引き上げによる景気の後退が顕著になってきました。桜を見る会の追求も

大詰めです。黙っていても政治は変わりません。おおいに声をあげ、新しい政治を実現しましょう。